

第29回日本消化器癌発生学会総会のご案内

第29回日本消化器癌発生学会総会

『複雑な組織と分子を解く』

会期：2018年11月16日(金)～17日(土)

会場：都市センターホテル(東京都千代田区平河町2-4-1)

会長：落合 淳志

(国立がん研究センター 先端医療開発センター長)

HP：<http://www.j-sgc.org/jsgc2018/> (準備中)



編集後記

九州大学消化器・総合外科 吉住朋晴

熊本大学消化器外科学教授 馬場秀夫会長の下、第28回日本消化器癌発生学会、第9回国際消化器癌発生会議がいよいよ開催されます。熊本県は昨年4月の熊本地震により甚大な被害を被りました。熊本出身である私の実家は落ちた屋根瓦は修復いたしましたが、未だ少し傾いたままです。このように震災後は多くの熊本県民の皆様が不自由な生活を余儀なくされていましたが、「がまだす(頑張る)」を合言葉に、力強く復興に向けて歩み出されています。熊本には、馬刺し、熊本ラーメン、辛子レンコンなど、もうごつうまか(とても美味しい)料理がたくさんございます。学会ご参加の皆様におかれましては、昼は学会でしっかり勉強していただき、夜は熊本の街で散財し、復興の手助けをいただければと存じます。

また、今回は当科の前原喜彦教授が理事長として迎えられる最後の学会になります。2009年理事長ご就任後、大原賞・田原賞・研究奨励賞の創設、理事長直轄プロジェクトの開始などの卓抜したアイデア、さらに一般社団法人化への舵取りなど、本学会の発展にご貢献されてまいりました。理事長ご退任は、事務局幹事としましても感無量でございます。今後、私は一会員といたしまして日本消化器癌発生学会の更なるご発展を祈念いたしております。

発行 一般社団法人日本消化器癌発生学会事務局

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F

株式会社クパパロ内

TEL：03-3238-1689 FAX：03-3238-1837

発行日 2017年●月●日

発行者 一般社団法人日本消化器癌発生学会

編集 総務委員会



一般社団法人日本消化器癌発生学会

News Letter

<http://www.j-sgc.org/>

2017 No.2

目次

第28回日本消化器癌発生学会、第9回国際消化器発癌会議を開催するにあたって	1
第27回日本消化器癌発生学会を終えて	2
平成28年度日本消化器癌発生学会理事会議事録	3
名簿一覧	6
第29回日本消化器癌発生学会総会のご案内	8
編集後記	8

第28回日本消化器癌発生学会、 第9回国際消化器発癌会議を開催するにあたって



熊本大学大学院生命科学研究部消化器外科学教授 馬場秀夫

平成29年11月17日(金)、18日(土)に熊本市で、第28回日本消化器癌発生学会、第9回国際消化器発癌会議を開催させていただきます。今回のテーマは、国際学会との同時開催のため、『Look into the Future in Cancer Research』とさせていただきます。外科、内科、病理、基礎という幅広い領域の研究者が一堂に会し、最先端の研究成果について活発な議論を行っていただきたいと思います。そして、これまでの研究を通じて見えてきた課題を捉え、消化器癌研究の“未来に繋がる実り多い学会”になることを心より期待しております。また、今回は国際消化器発癌会議と同時開催であり、Joan M.C. Bull先生(The University of Texas Medical School at Houston)、Heinz-Josef Lenz先生(The USC Norris Comprehensive Cancer Center)、Jimmy So先生(National University Cancer Institute, Singapore)、Ajay Goel先生(Baylor University Medical Center)という高名な研究者を海外から講師として招聘しています。本会が海外研究者と本学会員の交流の場となり、更なる国際共同研究の推進に発展する一助になりましたら幸いです。

シンポジウムのテーマとしては、①癌代謝を考えるー臨床応用へ展開を目指してー、②腫瘍微小環境の浸潤、転移、薬剤耐性への影響、③癌ゲノム解析に基づいた個別化医療、④消化器癌における腫瘍免疫と治療への応用、を取り上げましたが、いずれも現在注目を集める重要な研究分野です。シンポジウムにはたくさんの演題を応募いただき、一般演題(口演、ポスター)を含めると155題という多くの演題をいただきました。応募いただきました先生方には心より厚く御礼を申し上げます。また、特別講演を4題、佐谷秀行先生(慶應義塾大学)、甲斐広文先生(熊本大学)、松村保広先生(国立がん研究センター)、大島正伸先生(金沢大学)にお願いしております。近日中にプログラムをお手元にお届けできますように、現在、鋭意プログラムを作成中であります。

ご存じのとおり、熊本は、平成28年4月14日にマグニチュード6.5の前震、4月16日にマグニチュード7.3の本震に襲われました。現在、復興の途上にあり、幸いに熊本の街の賑わいは、以前に勝る活気を取り戻しつつあります。また、11月の熊本は空気が澄み、紅葉が目に見え、鮮やかな清々しい季節です。馬刺し、熊本ラーメン、天草の海の幸、阿蘇の山の恵みが、また、黒川・山鹿・菊池・阿蘇・天草下田など県内各所の良質な温泉が皆様をお待ちしていますので、学会の合間に心ゆくまで熊本をお楽しみいただきますことを心より願っております。

多くの皆様のご来熊を心よりお待ちしております。

第27回日本消化器癌発生学会を終えて

鹿児島大学消化器・乳腺甲状腺外科教授 夏越祥次

平成28年9月15、16日に第27回日本消化器癌発生学会を鹿児島市の城山観光ホテルで開催させていただきました。鹿児島では平成17年に愛甲孝名誉教授が第16回の本学会を開催して以来11年ぶりとなりました。

学会のテーマは「種芽木林 一癌発生，進展と制御」とさせていただきました。癌の観点からみると、1個の細胞から癌が発生し(種)、分裂を繰り返し、次第に顕性化し臨床的に画像で捉えられるようになり(芽)、やがて大きな腫瘍となり(木)、最終的に転移巣を形成する(林)、この過程をイメージしたものです。一方、癌の発生・進展に対して、私たちは基礎および臨床研究を通じて、診断・治療に応用し、患者さんに貢献していくことが責務であります。癌研究という観点からは、研究のシーズ(種)を育み、次第に結果が出る(芽)と注目され始め研究費等も獲得でき、さらに研究が進展し(木)、最終的に多くの施設との共同研究に結実していく(林)、このような姿をイメージいたしました。

特別講演はがん研究会の野田哲生先生に「NGSによるがんゲノム解析が示す発がん転移・再発のメカニズム」、ペンシルバニア大学の中川 裕先生に「食道扁平上皮がんとその進展における上皮間葉移行の役割」についてお話をいただきました。大原毅賞は、熊本大学消化器外科学の馬場祥史先生が「消化器癌における epigenetic 変化の網羅的解析：個別化治療のための biomarker 探索を目指して」、田原榮一賞は、確立がん研究センター研究所の谷内田真一先生が「十二指腸乳頭がんの特徴的ながん関連遺伝子“ELF3”の発見がそれぞれ受賞され、記念講演をされました。それぞれ最先端の知見に関わる興味深いお話をいただきました。

シンポジウムとして、1. 各種臓器で発癌にはさまざまな因子が関与していますが、中でも関連が深い「消化器癌の発生と感染や炎症の関与」2. 発癌後のプロセスとして重要である「消化器癌の進展・転移のメカニズムと制御について」3. 消化器癌の治療には書くことができない「消化器癌の遺伝子異常と抗癌剤や放射線感受性・耐性」、4. 最近特に注目を集めている「消化器癌の免疫 ー基礎から臨床へー」の4つを取り上げました。研究奨励賞発表セッションでは4演題が、また理事長直轄プロジェクトでは7演題が発表されました。どの演題も非常に格調が高く、基礎・臨床にわたり臓器横断的内容で、参加者の皆さんにとって大変勉強になったと思います。

最終的に演題総数200題、4つのランチョンセミナーを含む42のセッションを組むことができました。今後の世界的な発信を目指して、発表スライドおよびポスターはすべて英語という新たな試みを取り入れました。全国から多くの先生方が参加され、2日間にわたって活発な討論をいただき、成功裡に終了することができました。会員の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係各位の皆様には厚く御礼を申し上げます。



平成28年度日本消化器癌発生学会理事会議事録

日 時：平成28年9月14日(水) 16:10～17:10

会 場：城山観光ホテル ガレリア

出席者(敬称略)

理 事： 前原 喜彦、夏越 祥次、汐田 剛史、伊東 文生、牛島 俊和、落合 淳志、掛地 吉弘、
北川 雄光、桑野 博行、小寺 泰弘、鈴木 拓、島田 光生、瀬戸 泰之、馬場 秀夫、
松原 久裕、三森 功士、森 正樹、安井 弥、横崎 宏、吉田 和弘

監 事： 太田 哲生

事務局幹事：愛甲 丞、調 憲、野村 幸世、吉住 朋晴

事務局： 齋藤 英司

委任状(敬称略)

理 事： 今野 弘之、源 利成

監 事： 竹之下誠一

前原理事長が議長となり開会の挨拶を述べ、また、夏越会長より第27回日本消化器癌発生学会開催にあたっての挨拶があった。

前回議事録を承認したのち、前原理事長が議事録署名人として島田光生理事、瀬戸泰之理事を指名し、議事が進められた。

第1号議案 庶務報告

調事務局幹事より、会員の動向が次の通り報告された。

平成27年11月から平成28年10月までに入会31名、退会23名の増減があり、平成27年11月10日現在の会員数は937名である。

第2号議案 役員選考委員会報告

馬場理事より以下の報告があった。

①役員・名誉会員・特別会員について

- ・定年により役員を退任される先生方について、竹之下誠一監事は名誉会員に推挙し、引き続き本学会を支援していただくことが提案され、全会一致で承認された。
- ・定年により評議員を退任される嶋本文雄評議員について特別会員に推挙し、引き続き本学会を支援していただくことが提案され、全会一致で承認された。
- ・2018年の第29回総会の会長について国立がん研究センターの落合淳志理事が推薦され、全会一致で承認された。

②理事選考について

- ・平成21年度第3回理事会での「運用上理事定員を若干上回ることも許容される」との議決と、一般社団法人化で理事の増員が予定されていることから、調憲評議員・事務局幹事(群馬大学)が理事として推薦され、全会一致で承認された。
- ・監事については桑野博行理事が推薦され、全会一致で承認された。

③評議員選考について

- ・新評議員として以下の3名が推薦されていることが報告され、全会一致で承認された。

石本 崇胤 先生 (熊本大学消化器外科)

磯本 一 先生 (鳥取大学機能病態内科)

神田 光郎 先生 (名古屋大学消化器外科)

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

第3号議案 国際委員会報告

掛地理事より以下の報告があった。

- ・ 今後の国際学会の開催は、海外では難しい事情があるので、3年に1度程度の頻度で日本開催とすることがISGCのボードミーティングでも承認されている。
- ・ 次回開催は2017年度には熊本大学の馬場理事が主催する第28回日本消化器癌発生学会と併催となることが説明された。
- ・ 評議員から徴収している年間1,000円の会費については、国際学会開催の際の海外講演者の招聘旅費の一部として使用することが承認されており、次回開催費用として馬場会長に90万円程度の補助金を支払う予定であることも説明された。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第4号議案 研究推進委員会報告

三森理事より、理事長直轄の研究推進プロジェクトとは別の新しいプロジェクトとして、各研究室ごとに動物モデルのマッチングを行い、新たな研究をスタートしてもらうためのアンケートを行う予定であることが説明された。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

第5号議案 学会賞選考委員会報告

掛地理事より以下の報告があった。

- ・ 大原賞、田原賞については、各委員による採点の結果を踏まえた前原理事長と桑野委員長による協議の結果、大原賞受賞者を馬場祥史先生(熊本大学 消化器外科)、田原賞受賞者を谷内田真一先生(国立がん研究センター研究所)に決定し、委員会、理事会の持回り審議で承認を得ていることが報告された。
- ・ 研究奨励賞については、事前に持ち回りで行った採点の結果、応募のあった以下の10名全員を受賞者とし、委員会、理事会の持回り審議で承認を得ていることが報告された。
 - ◆坂本 直也 先生(広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子病理)
 - ◆木村 明春 先生(群馬大学大学院病態総合外科学)
 - ◆堤 智崇 先生(九州大学消化器・総合外科)
 - ◆塚越真梨子 先生(群馬大学大学院 病態総合外科学)
 - ◆田中 晴祥 先生(名古屋大学附属病院)
 - ◆王 歓林 先生(九州大学消化器総合外科)
 - ◆岩橋 衆一 先生(徳島大学 消化器・移植外科)
 - ◆波多 豪 先生(大阪大学大学院医学系研究科外科学講座消化器外科学)
 - ◆濱田 隼一 先生(京都府立医科大学 消化器外科)
 - ◆栗原 弘義 先生(JR札幌病院)
- ・ 研究奨励賞の賞金額については合計100万円を予算としており、1件当たり10万円として合計100万円を授与することが、承認された。
- ・ 平成29年度の大原賞、田原賞、研究奨励賞の募集スケジュールについても例年通り行われることを確認している。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

第6号議案 倫理問題検討委員会報告

吉田理事より以下の報告があった。

- ・ 学会役員及び各委員会委員長、倫理問題検討委員は平成28年1月1日から12月31日までの期間の利益相反自己申告書の提出が義務付けられ、全対象者から提出されていることが確認された。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第7号議案 財務委員会報告

島田理事より以下の報告があった。

- ・平成27年度の決算について
- ・バナー広告などが大きく予算を下回ったが、会費収入が予算を上回ったことからほぼ予算通りの収入となった。
- ・支出については研究奨励賞受賞者が10名にとどまったことや、法人化経費の支出を本年度に持ち越したことなどにより、予算を下回る支出となった。
- ・以上の結果、繰越金の増加があった。
- ・これらについて、竹之下誠一監事、太田哲生監事より適正に執行されていることを確認したとの監査報告書が提出されている。
- ・平成28年度の予算案について
- ・収入については平成27年度決算を基にした予算立てとなっており、昨年0だったバナー広告に関して今年は獲得を見込んでいる。
- ・支出についても一般社団法人化経費を見込んでおり、多少の増額があるものの、財政的には安定している。
- ・未納者リストについて、会費の支払いについて各理事の協力をお願いしたい。

決算案については、太田監事からも竹之下監事と共に適正に執行されていることを確認している旨の発言があった。以上について慎重な審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第8号議案 在り方委員会報告

夏越理事より以下の報告があった。

- ・会員数の増加について、会員数1,000人を目標に、特に基礎系会員の増加を目指して各評議員が会員獲得に努めるよう活動を続けることが確認された。
- ・一方会費の未納者の問題もあるので、会費の督促、長期滞納者への対応が課題となる。
- ・理事長直轄プロジェクトは順調に進んでいる。
- ・学会参加者の増加を目指して、臨床の先生が発表しやすいテーマを検討する。
- ・今年の学会ではスライド、ポスターを英語化している。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第9号議案 会則委員会報告

汐田理事より、昨年の理事会、評議員会、総会で承認された一般社団法人化後の定款案について、本年度中の一般社団法人の設立に向けて再度確認を行ったことが報告された。

第10号議案 第26回学会総会(2015年)報告

第26回日本消化器癌発生学会総会は、平成27年11月19-20日に米子市の米子全日空ホテルで開催され盛況であった旨、汐田前会長より報告された。

第11号議案 第27回学会総会(2016年)報告

第27回日本消化器癌発生学会総会について夏越理事より挨拶があり、平成28年9月15-16日に、鹿児島市の城山観光ホテルで開催される予定であることが報告された。

第12号議案 第28回学会総会(2017年)報告

第28回日本消化器癌発生学会総会について馬場理事より挨拶があり、平成29年11月17-18日に、熊本市のメルパルク熊本で開催し、第9回国際消化器癌発生学会を併催する予定であることが報告された。

第13号議案 第29回学会総会(2018年)報告

第29回日本消化器癌発生学会総会会長に落合理事が推薦されたことが報告され、落合理事より改めて挨拶があり、時期は検討中であるが、東京都内で2018年11月頃に予定であることが報告された。

第14号議案 その他

前原理事長より、評議員会での正式承認を経て、一般社団法人日本消化器癌発生学会の設立手続きを行い、年内に設立の予定であることや、また、来年の総会は一般社団法人としての最初の総会となることが説明された。

以 上

名簿一覧

2016年9月17日から

役員名簿

理事長	前原 喜彦				
副理事長	島田 光生				
理事(22名)	伊東 文生(60)	牛島 俊和(54)	落合 淳志(60)	掛地 吉弘(54)	北川 雄光(56)
	小寺 泰弘(56)	今野 弘之(64)	汐田 剛史(58)	島田 光生(57)	調 憲(55)
	鈴木 拓(45)	瀬戸 泰之(58)	夏越 祥次(61)	馬場 秀夫(58)	前原 喜彦(63)
	松原 久裕(56)	源 利成(58)	三森 功士(50)	森 正樹(60)	安井 弥(61)
	横崎 宏(57)	吉田 和弘(58)			
会長	馬場 秀夫				
次期会長	落合 淳志				
監事(2名)	太田 哲生(61)	桑野 博行(63)			
事務局幹事(3名)	野村 幸世	愛甲 丞	吉住 朋晴		

名誉会員・特別会員名簿

名誉理事長(3名)	大原 毅	杉町 圭蔵	上西 紀夫		
名誉会員(29名)	愛甲 孝	青木 照明	井藤 久雄	今井 浩三	内田 雄三
	江角 浩安	岡 正朗	小川 道雄	小俣 政男	金澤暁太郎
	北島 政樹	高後 裕	小西 文雄	佐治 重豊	篠村 恭久
	杉村 隆	菅野健太郎	曾和 融生	竹之下誠一	立松 正衛
	田原 榮一	田尻 孝	寺野 彰	平川 弘聖	平田 公一
	二川 俊二	三輪 晃一	宮崎 耕治	門田 守人	
物故者	恩田 昌彦	下山 孝	長町 幸雄	長與 健夫	磨伊 正義
	久保田哲朗	豊田 実			
特別会員(44名)	朝倉 均	磯野 可一	岩永 剛	岡島 邦雄	小川 健治
	冲永 功太	笠原 正男	兼松 隆之	川口 実	木村 健

工藤 進英	熊谷 一秀	後藤 満一	斉藤 利彦	塩崎 均
嶋本 文雄	白水 和雄	砂川 正勝	炭山 嘉伸	曾我 淳
高橋 俊雄	竜田 正晴	田中 紀章	田久保海誉	田渕 崇文
徳永 昭	西野 輔翼	服部 隆則	比企 能樹	平山 廉三
廣田 映五	藤田 力也	藤盛 孝博	船曳 孝彦	松川 正明
松倉 則夫	三木 一正	武藤徹一郎	武藤 泰敏	棟方 昭博
安富 正幸	山口 明夫	山川 達郎	渡辺 敦光	
物故者 小西 陽一	塚田 一博	馬場 正三		

評議員名簿

愛甲 丞	相島 慎一	浅尾 高行	油谷 浩幸	池上 徹	池口 正英	池田 哲夫
池本 哲也	石神 純也	石河 隆敏	石本 崇胤	磯本 一	市川 大輔	伊藤 心二
伊東 文生	今西 達也	居村 暁	上野 真一	牛島 俊和	内田 英二	宇都宮 徹
江頭 明典	江上 寛	江見 泰徳	大上 直秀	大賀 丈史	太田 哲生	大段 秀樹
大辻 英吾	大平 雅一	緒方 杏一	緒方 裕	岡野 慎士	岡山 洋和	沖 英次
奥村 知之	奥村 浩	長田 真二	小田 義直	落合 淳志	甲斐 敬太	掛地 吉弘
片岡 洋望	加藤 俊二	加藤 広行	金田 篤志	神山 俊哉	川中 博文	川又 均
神田 光郎	北川 雄光	北台 靖彦	楠本 哲也	國安 弘基	久保 正二	久保田英嗣
隈元 謙介	栗田 信浩	桑野 博行	鴻江 俊治	小寺 泰弘	今野 弘之	齋藤 元伸
佐伯 浩司	坂本 一博	佐々木欣郎	澤田 鉄二	汐田 剛史	島崎 猛夫	島田 信也
島田 光生	嶋田 裕	清水 伸幸	城 卓志	白川 靖博	調 憲	末廣 剛敏
菅井 有	杉原 洋行	杉町 圭史	鈴木 秀樹	鈴木 拓	瀬戸 泰之	仙谷 和弘
副島 雄二	高橋 孝夫	高橋 典彦	高森 啓史	武富 紹信	田中 信治	田中 成岳
田中 浩明	塚本 徹哉	辻谷 俊一	寺島 雅典	藤 也寸志	富田 尚裕	内藤 善哉
中島 秀彰	長田 成彦	仲田 文造	中森 正二	中山 淳	夏越 祥次	檜原 啓之
西森 英史	西山 正彦	能正 勝彦	野村 幸世	橋本 大輔	馬場 秀夫	馬場 祥史
東島 潤	檜井 孝夫	檜原 淳	福井 宣規	伏田 幸夫	藤村 隆	藤原 俊義
藤原 義之	別府 透	前原 喜彦	前村 公成	松橋 延壽	松原 長秀	松原 久裕
松本 伸行	真船 健一	源 利成	峯 徹哉	三森 功士	宮内 英聡	宮崎 達也
宮下 知治	宮地 和人	向所 賢一	武藤 倫弘	森 正樹	森田 勝	森根 裕二
守山 正胤	八尾 隆史	八代 正和	安井 弥	谷内田真一	山口 悟	山口 佳之
山下 公大	山下 裕玄	山下 洋市	山田 岳史	山本 博幸	横崎 宏	横堀 武彦
吉川 幸造	吉住 朋晴	吉田 和弘	吉田 優	吉永 敬士	吉松 和彦	米満 吉和
渡邊 聡明	渡邊 雅之					

※下線は新任